

様式第10号(第6条関係)

令和5年3月31日

西条市長 玉井敏久 殿

会派名 西条自民クラブ
経理責任者 川又 由美恵

令和4年度政務活動費収支報告書

西条市議会政務活動費の交付に関する条例施行規則第6条の規定により、下記のとおり令和4年度政務活動費収支報告書を提出します。

1 収入(政務活動費) 2,160,000円
2 支出 2,160,000円

内訳

(単位:円)

科目	金額	備考
研究研修費		
調査旅費	2,160,000	北海道稚内市ほか
資料作成費		
資料購入費		
広報費		
広聴費		
事務費		
その他の経費		
合計	2,160,000	

3 残額 0円




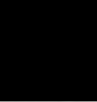
注 備考欄には、主たる支出を記入してください。

この報告書には、支出が明らかな領収書等の証拠書類を添付してください。

支 出 伺

令和4年4月22日

本書金額を、政務活動費より支出してよろしいか。

代表者印	経理責任者印	請求者	楠	學
				
令和4年度				
科 目	<input type="checkbox"/> 研究研修費	<input checked="" type="checkbox"/> 調査旅費		
	<input type="checkbox"/> 資料作成費	<input type="checkbox"/> 資料購入費		
	<input type="checkbox"/> 広報費	<input type="checkbox"/> 広聴費		
	<input type="checkbox"/> 人件費	<input type="checkbox"/> 事務費		
	<input type="checkbox"/> その他の経費			
金 額	1,934,100 円			
対象者氏名	伊藤孝司、武田 功、楠 學、一色輝雄、行元 博、坪井 剛、佐伯利彦、川又由美恵、藤井武彦、高橋 保、三好和彦、塩崎雄大			
支出内訳	1. 調査期間 令和4年4月25日(月)～4月28日(木) 2. 調査場所 北海道稚内市議会・名寄市議会・千歳市議会 3. 調査人員 12名 4. 予算支出額 旅費12名分 1,483,800円…① バス借上料 450,300円…② 5. 政務活動費から支出する額 上記 ① + ② = 1,934,100円			
支出年月日	令和4年5月2日			
金銭出納簿 記載済印	川又由美恵 			

○航空運賃

@ 80, 350 × 12名 = 964, 200円

領 収 証

西条市議会 西条自民クラブ 様 No. 18

★ 964,200.-

但 4/5/28 貸切便代等
4年 5月 2日 上記正に領収いたしました

収 入 印 紙	内訳	税率	金額(税抜・税込)
		%	消費税額等
		税率	金額(税抜・税込)
		%	消費税額等

コクヨ ウケ-1097


株国際旅行 西条営業所
 〒793-0065 西条市榎木40-1
 TEL・FAX 0897-55-1497

○バス借上料

領 収 証

西条市議会 西条自民クラブ 様 No. 19

★ 450,300.-

但 4/5/28 貸切便代等
4年 5月 2日 上記正に領収いたしました

収 入 印 紙	内訳	税率	金額(税抜・税込)
		%	消費税額等
		税率	金額(税抜・税込)
		%	消費税額等

コクヨ ウケ-1097


株国際旅行 西条営業所
 〒793-0065 西条市榎木40-1
 TEL・FAX 0897-55-1497

報告	部長	課長	副課長	係長	係長	係	係
[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
決裁年月	決裁:	指示内容					
供開	合議・供開先	出張報告書					
文書分類							

令和 4年 5月13日

西条市議会議長

武田 功 殿

出張者

西条自民クラブ

楠 學
 塩崎 雄大
 三好 和彦
 高橋 保彦
 藤井 武彦
 川又由美恵
 佐伯 利彦
 坪井 剛博
 行元 博輝
 一色 雄功
 武田 孝司
 伊藤 孝司

政務活動費による出張の概要を、下記のとおり報告します。

記

出張先	北海道稚内市、北海道名寄市、北海道千歳市
出張期間	令和 4 年 4 月 25 日 ~ 令和 4 年 4 月 28 日 4 日間
出張用務	会派視察研修
概要報告	北海道稚内市「消防団によるファーストレスポonder体制について」 稚内市では、稚内消防署から遠い地域があり、救急車の平均到着時間が最短で約12分、最長で約35分を要し、初期対応が課題となっていた。高齢化が進む中、市民に対しての救命活動は、一秒の遅れで生命の維持やその後の救急救命処置に大きく関係する。ファーストレスポonder体制とは、消防署からの遠隔地域において心肺停止による救急出動依頼があった場合、消防署から連絡があった現場近くの消防団員が現場に駆けつけ、救急隊が到着するまでの間、心肺蘇生・AEDの使用・気道異物除去などの応急手当てを行うもので、救命効果が向上する効果が期待されている。今回の研修では、ファーストレスポonder体制のイメージ、養成講座の受講内容及び受講状況、そして活動事例などの説明を受けた。西条市でも、これらの体制に取り組むことにより、市民の安全、安心を担保することができると強く感じた。
	北海道名寄市「まちなかにぎわい事業について」 名寄市は、少子高齢化、人口減少に伴い、街が賑わいを失いつつある。そのため「市外地区の賑わいの再生と環境向上」を創出する事業に補助を行っている。この事業は、平成18年より継続して行われており、令和2年度、令和3年度においては、新型コロナウイルスの影響の支援対策として、補助率を大幅に上げて行われていた。官民が連携して研究・事業に取り組んでおり、商店街の環境整備や、近代化、創業支援、イベントへの助成など補助メニューが多岐

概 要 報 告

にわたっており、いろいろな側面から支援している。商工会議所、商工会、地元商店、料飲店組合、大手デパート等が協力して大売り出しイベントを企画し、それに市が補助を行って実施された実績もあり、一丸となってまちを盛り上げている。西条市においても商店街の老朽化、空き店舗の増加、まちの空洞化が深刻な問題であり、この事業は有効と感じた。

北海道千歳市「千歳版環境マネジメントシステムについて」

千歳市は、平成10年6月に千歳市環境基本条例を制定し環境保全に取り組んできた。そして平成24年1月には、市長が定める市役所が取り組むべき環境保全行動の基本理念として、地球環境、地域社会との調和を図りつつ、地球温暖化対策、省エネルギー、環境法令遵守に積極的に取り組み、地球に優しい豊かな社会づくりに貢献する環境宣言を行った。そのエコアクションの取組の進め方として、施設等が活動単位となり温室効果ガス排出量及びエネルギー消費削減の推進を消費PDCAサイクルで取り組んでいる。そして、内部環境監査組織を置き、エコアクションの手順が適切か、目標達成状況の検証等、毎年監査を実施している。その結果、職員一人ひとりの意識改革が浸透し、省エネ法定定期報告書Sクラスに認定された。今後の課題として、職員の環境配慮行動の限界、設備等の更新に係る費用の捻出があげられる。また、令和4年2月には、2050年カーボンニュートラルを目指して千歳市ゼロカーボンシティ宣言を行った。西条市でも、豊かな自然と調和したまちづくりを行うために、環境に配慮した意識改革、取組を積極的に行わなければならないと感じた。

支 出 伺

令和5年1月16日

本書金額を、政務活動費より支出してよろしいか。

代表者印	経理責任者印	請求者	楠	學
[Redacted]	[Redacted]			[Redacted]
令和4年度				
科 目	<input type="checkbox"/> 研究研修費 <input checked="" type="checkbox"/> 調査旅費 <input type="checkbox"/> 資料作成費 <input type="checkbox"/> 資料購入費 <input type="checkbox"/> 広報費 <input type="checkbox"/> 広聴費 <input type="checkbox"/> 人件費 <input type="checkbox"/> 事務費 <input type="checkbox"/> その他の経費			
金 額	225,900 円			
対象者氏名	伊藤孝司、武田 功、楠 學、一色輝雄、行元 博、坪井 剛、佐伯利彦、川又由美恵、藤井武彦、高橋 保、三好和彦、塩崎雄大			
支出内訳	1. 調査期間 令和5年1月18日(水)～1月19日(木) 2. 調査場所 島根県出雲市議会・ 広島県広島市西部リサイクルプラザ 3. 調査人員 12名 4. 予算支出額 旅費12名分 188,400円…① バス借上料 220,400円…② 合計(①+②) 408,800円 5. 政務活動費から支出する額 <u>上記支出合計額の内</u> 225,900円			
支出年月日	令和5年1月25日			
金銭出納簿 記載済印	川又由美恵 [Redacted]			

○バス借上料

領 収 証

西条市議会 西条市民クラブ

様 No. _____

★ 手 220,400.-

内 訳 _____
 現 金 _____
 小切手 / _____
 手 形 / _____
 消費税(10%) _____
 消費税(8%) _____
 内税額計 _____

但 48-49 行政視察、出張市会等
 バス借上料として
 5年 / 月 15 日 上記正に領収いたしました
 登録番号



株国際旅行 西条営業所
 〒793-0065 西条市榎木46-1
 TEL・FAX 0897-55-1497

議長	副議長	議長	議長	議長	議長	議長
<div style="background-color: black; width: 100px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 100px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 100px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div>						
決議・供圖	決議年月	所管:	決議内容			
		会派・議員先	出張報告書			
			文書分類			

令和5年1月31日

西条市議会議長

武田 功 殿

出張者

西条自民クラブ
 楠 學
 塩崎 雄大
 三好 和彦
 高橋 保彦
 藤井 武彦
 川又由美
 佐伯 利彦
 坪井 剛博
 行元 輝雄
 一色 功
 武田 孝
 伊藤 孝司

政務活動費による出張の概要を、下記のとおり報告します。

記

出張先	島根県出雲市、広島県広島市
出張期間	令和5年1月18日 ～ 令和5年1月19日 2日間
出張用務	会派視察研修
概要報告	<p>島根県出雲市「大山隠岐国立公園満喫プロジェクト推進事業について」</p> <p>日御崎地区の満喫プロジェクトは、他の7国立公園とともに、同プロジェクトの取組を先行的、集中的に実施する国立公園と選定され、関係行政機関や地域関係者により「大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会」が設立された。</p> <p>平成30年から令和3年までのインバウンド人数の大幅な減少は、コロナ感染が大きな要因であると思われる。更に、出雲市は、県内最大の観光客数があるにも関わらず、出雲市内に宿泊する観光客の割合は僅かであり、観光客の7割は出雲大社にしか訪問しない通過型観光との分析結果がある。</p> <p>そのような状況の中、観光客増加対策として、協議会の意見を取り入れ、体験型旅行商品・FAMツアー・情報発信・人材育成・イベント開催などが現在進行しており「日の沈む聖地 出雲」「日本ジオパーク認定」など、地元にある環境を魅力的にするため、日御崎でのブラッシュアップの一環も協議会の協力を得て、国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業が進められている。</p> <p>地元の声としては、ソフト事業として「2階建てオープントップバスを使用したサンセット出雲号で、自然と夕日を堪能する」「シーカヤック体験など地元とのふれあい体験プログラムの造成を行っている」「地元漁師と巡る海岸線クルージング」など人気があるものの、実際には乗客が少なくゼロのときもあつたり、後継者不足を補えないなどの課題が出ているのが現状である。</p> <p>関係人口・交流人口獲得のための企画にも影響してくる組織構成が、西条市は民間としながらも行政主導型、出雲市は行政が指導しているが民間・地域住民からの要望やヒアリングによる地域共同型でおこなっているように思う。</p> <p>その結果として、課題解決のため『日御崎地区まち歩き環境向上基本計画』などを策定し、集客エリア・周遊エリアとして日御崎集団施設地区と一体的な誘客促進を目指している。</p> <p>民間と称しながら地域との連携や時代のニーズを先読みできない組織体制では、地域住民ですら関心のない事業展開になるのは必然だと思う。</p>

実行するには、予算の関係もある事だが以下のような事業を本市にも取り入れることにより、現在ある事業や観光ポテンシャルの部分をブラッシュアップすることが急務ではないかと考察する。

【西条市に取り入れたい事業】

- ① 多様なサービスのための民間活用
 - (ア) 公共施設の民間開放等
 - (イ) 上質な宿泊施設の提供
 - (ウ) ツアー・プログラム開発とガイド育成
 - (エ) 利用料等の公園管理への活用
- ② まちなみ等の景観改善
- ③ インバウンド対応のための施設整備等

広島県広島市「広島市西部リサイクルプラザについて」

広島市西部リサイクルプラザは、ごみ減量・リサイクル推進の拠点施設であり「物を大切に使う」「できるだけごみにしない」という意識を市民全体で高めていくことを目的としている。

広島市域の家庭から排出された資源ごみを効率よく選別し資源として再利用しており、収集された資源ごみは未選別ヤードに集められ、供給コンベアからまずダンボールを取り除き、その後①鉄、布、新聞、雑誌、その他の紙②生ビン、スチール缶、アルミ缶③カレット白、カレット茶、カレット青黒、の順でそれぞれ搬出されている。コンベアに資源ごみが流れて来ると、それぞれに担当者がおり、品目によって手際よく分別していたが、最初からそれぞれの分別ができていれば、作業はもっと楽になるように思われた。

施設内には、広島市シルバー人材センター運営の「シルバーリサイクルショップ」が開設されており、無償で提供された服やシルバー人材センターの会員がリフォームした衣類、再生自転車などが販売されており、特に再生自転車は販売が好調であるとのことであった。

リサイクルの分別は、現地視察して人力選別の苦勞と細かく選別され資源となる様子がよく理解できた。

また、シルバー人材センターのかたがたによるリサイクル製品の販売や服の販売なども魅力的な部分だと思った。

今後西条市のリサイクルセンター構想にはごみを資源に有効利用することはもちろん、市民の憩いの場所やリサイクルに関心を持たせる拠点にしなくてはならないと感じた。

【西条市に取り入れたい事業】

市民の皆さんから無償で提供された服の販売・シルバー人材センター会員製作のリフォーム衣類、再生自転車・「物を大切に使う」「できるだけごみにしない」といった市民全体の意識を高めていく拠点づくり構想